



150th ACKU例会 氷ノ山 (1510 m)

ACKU例会山行報告

期 日：2012年3月3～4日

幹事 金井良碩 登山リーダー 緒方俊治

参加者(氷ノ山登山)：井上達、矢崎、現坂本、現上村、現松尾、橋本(HNA、関大山岳会)、緒方、以上7名

(ねむの木山荘滞在)：高田誠(山荘世話役)、高田和、有馬、壺阪、金井良(幹事)、以上5名

(山荘同宿)：金井健、田中信、小谷、横山公子、横山佳世)

行 動：

(氷ノ山登山)

3月3日(土)曇一時雨、千本杉ヒュッテに入る

ねむの木山荘発 7:20 - 集合、登行リフト乗る 8:20 - リフト終点発 8:45 - 10:30 東尾根避難小屋 10:55 - 12:30 千本杉ヒュッテ着(泊)

ほとんどは昨夜までにねむの木山荘に集結、今朝は早めにリフト乗場まで送ってもらう。夜に雪が降ったようで、道が白くなっていた。独自入山の矢崎の到着を待ってリフトに乗る。国際スキー場のパトロールに登山届を出して出発。登山口から林道を回り込んで、沢筋から東尾根に出た。数十年ぶりの大雪で積雪はタップリあり、ここのところは気温が上がって雪が締まり歩きやすい。風もなく暖かく、登っていると汗ばんでくる。金井良さんも避難小屋まで同行、1人での帰りは慎重に斜滑降したそうだ。ワッパの現役は苦勞する場面もあったが、登るにつれて雪が固くなって楽になったようだ。さすがに早い。避難小屋からは一気にヒュッテまで上がる。積雪は4mぐらいだろうか、2階より高く、本体屋根からテラス屋根を覆って下の斜面につながり、ヒュッテは丸い山のように見える。入口を掘り出し、通行のステップを切り出して中に入った。外はガス、ストーブを囲んで残置の食糧をいただくなどして午後を過ごす。持参の食糧はキャンセルした3人を含めて10人分あった。大鍋に山盛りになってこれをどうするかと思ったが、明朝用にあえて取り置きするほどで、きれいに無くなった。ヒュッテの備品を使ってダブルシュラフで就寝。マットも増えるなど過ごしやすくなっている。

3月4日(日)曇後小雨、登頂～下山

ヒュッテ発 7:50 - 8:20 頂上 8:50 - 10:10 東尾根避難小屋 10:25 - 11:10 リフト終点 10:25 - 11:40 リフト乗場駐車場、解散(ねむの木山荘に戻る)

豊富な食料で朝食、ゆっくり準備する。残念ながら予想通りガスで視界が悪いけれども頂上目指して出発。風はなく寒さもあまり感じない。締まった雪の上に少し新雪が乗ったような状態でラッセルはほとんど無い。積雪が多いので木の枝は低い所になり、ブッシュは埋まっている。樹氷(モンスター)は溶け落ちたようで見られなかった。30分で頂上に到着。避難小屋に泊ったのか4～5人のパーティと出会う。天気は良くなりそうもないので、昨夜打ち合わせたようにブン回しは断念して東尾根を下ることにする。視界が悪いのであまり離れないように、方向を間違えないように注意して滑降する。ワッパの現役は走っているようだ。途中、10人ぐらいのパーティ2組とすれ違う。こち



らは自分の滑りに必死だが、余裕の誰かは若い女性に近寄ってカッコ良く滑って見せたとか。順調に避難小屋に着いて山荘の金井良さんに連絡、迎車を要請。早かったので彼の遊ぶ時間を無くしたようだ。往路を下ってスキー場で夏道ルートを下りた現役と合流し、パトロールに下山報告。ゲレンデを余裕で滑降して駐車場へ、迎えに来てもらった車でねむの木山荘に帰着した。山荘滞在の方々と一緒に美味しい昼食をごちそうになり、ここでもきれいにたいらげた。

(ねむの木山荘)

3月2日(金)~5日(月) ねむの木山荘滞在組

山荘をベースにスキー、山歩きや情報交換、いろいろなお話を楽しまれたようです。

(以上: 緒方 俊治 記)

注記: 時間記録は緒方は腕時計にて記録、井上はGPSにて記録した。パーティがピッチごとに離れて行動したので記録は一致していません。

今冬の西日本は豪雪に見舞われたが、氷ノ山もどうやらたっぷり雪がありそうだったと思っていた。結果、千本杉ヒュッテは記録的積雪で、2階の窓の半分まで積もっていた。およそ4.5mの積雪だった。生憎の悪天で土曜日は朝から霧。頂上に登ったがブン廻しは諦めて東尾根を下った。

2012年3月02日 金曜日

15:00 井上車、部室出発

現役の学生、坂本諭、上村明夫、松尾圭祐の三人を部室でピックアップして但馬へ。生憎の雨だ。途中で山田健から電話。彼は雨の予報で参加を取りやめた。

17:45 鉢高原の「ねむの木山荘」に到着。

山荘にはホストの高田誠を筆頭に、横山公子、佳世母娘、金井健二、壺阪祐三、小谷辰雄、高田和三、有馬誠、金井良碩、橋本昭(HNA)の面々が既に夕食を終えてくつろいでおられた。

昨年は見られた本澤氏の姿が見られないのが寂しい。追悼会が終わった後に我らは到着したようだ。夜には緒方も到着して山荘は超満員になった。井上は昨年の寝不足を思い出して静かな車にて就寝。

夜、霧雨が雪に変わって車や路面が白くなった。

2012年3月03日 土曜日

6:30 朝食

「ねむの木山荘」の主、高田誠の手作りの朝食を頂いた。

7:15 「ねむの木山荘」出発。

千本杉ヒュッテに登るのは結局、橋本、井上、緒方、坂本、上村、松尾に加えて氷ノ山国際スキ-場に直接やってくる矢崎の7人のみとなった。高田和、金井良が車で6人をリフ



ト乗り場に送る。道の駅に駐車して徒歩でリフト乗り場に向っている矢崎を金井良が迎えに行った。

8:20 登行リフト出発 8:33 リフト上

8:45 東尾根の避難小屋まで同行する金井良を加えて8人でスキー場を後にした。



氷ノ山国際スキー場にて

矢崎 緒方 金井良 橋本（HNA）上村（現役）坂本（現役）松尾（現役） 撮影井上

9:17—9:38 林道、東尾根取り付き

上村はスノーシュー、松尾はワカンだ。昨年は新雪が深く、壺足のトレースのあった夏道をトラーゲンで東尾根に登ったが、今年は雪が締まってすこし新雪のついた林道伝いに尾根を一つ越えて沢から東尾根に登った。取り付きが厄介だが、今年は積雪がたっぷりりで難なく林道から沢に入って取り付くことが出来た。



井上が新調したシールを利かせて傾斜のきついジグザグを切ったために後続が苦勞する。途中で反省して緩くしたが、シールの良し悪しがこれほどにも影響するとは想像できなか



った。15年もののシールから新調したのだからその差は大きい。緒方は今シーズン山スキー 7点セット(板、ビンディング、ストック、シール、スキー兼用靴、スキーアイゼン、流れ止め)を20万円(10%値引きで18万円で購入)で新調した。昨年までの登山靴と180cmの長いスキーでの登行とは雲泥の差である。ゲレンデ用のビンディングにアダプターを取り付けた坂本はシールが滑るとスキーの脱落でとうとうシール登行をあきらめる場面もあった。

歩行組はスノーシューの快適さとワカンのゴジラ落としの苦行に明暗分かれた。松尾はワカンに苦戦。標高が高くなった避難小屋以上では調子が良くなったようだ。

10:00 東尾根稜線



避難小屋が休憩小屋になっていた



膝の具合もそこそこ、避難小屋まで登った金井良(中央)

10:16—10:54 東尾根避難小屋

小屋に入って大休止。金井良はここからスキーを履いて下山。氷ノ山国際スキー場でしばらく滑降を楽しむ。ガスが1000m以上を包み込んでいるが、雨ではないのが助かる。避難小屋を出てすぐに急斜面の登りがあって、積雪が少ない年は雪庇になっておりスキーを外して通過することが多いのだが今年はたっぴりあって横歩きで上ることができた。



霧氷の美しい一の谷の斜面

12:00 一の谷乗越

積雪が多いとシール登行が楽だ。一の谷の登りは雨で氷化した雪面に薄っすらと新雪が着いているが所々剥がれていてシールが効きづらい。壺足の現役三人は直登で視界から消えていった。あたりのブナは白銀に輝く霧氷に小枝を化粧して実に美しい。

12:25 ヒュッテ到着

一ノ谷の登りで壺足組の3人(この時点で坂本はスキーを外してトラゲン)遅れをとった井上はモンスター樫(1300m)からトラバースに移って先頭でヒュッテに到着した。3人組は早くトラバースに入りすぎて途中で気づいて引き返したために二番手の矢崎の後にヒュッテに到着した。ガスの中、真っ白な雪原では個性的なブナの古木を記憶にとどめておく事が大切な道標だ。



モンスターブナ1300m



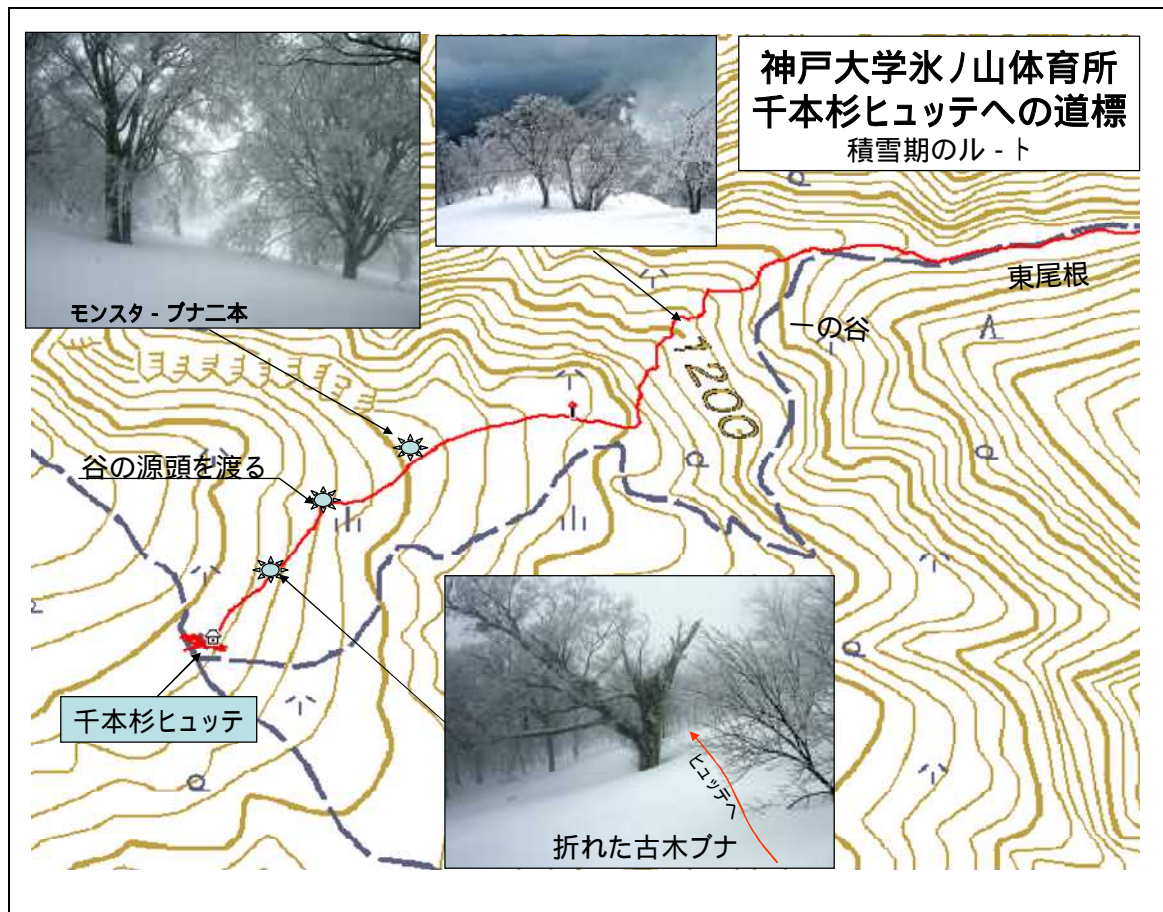
この枝折れブナを下手に見て水平に行くとヒュッテ



ここで千本杉ヒュッテへのアプロ-チの仕方を書いておこう。

一ノ谷の急斜面を最後は左にトラバースして登りきると緩やかな広々とした樺林の尾根に出る。これを稜線伝いに登っていくと右手にひととき大きな枝を広げたモンスター樺が二本現れる。標高は丁度1300mだ。ヒュッテは1340mでこの樺から左手に300m程のところにある。あまり登らずにトラバースしていくと小さな沢の源頭に出くわす。これを越えて少し行くと枝が折れて幹が乱れて残っている樺の古木を左手にするともう直ぐ小屋だ。モンスター樺から標高差40mを意識しながらトラバースしていけばピッタリと小屋に出会う。どんなに濃いガスの中でもこの三つの特長点を覚えておくと間違いなく小屋を見つけることができる。

過去には何度か小屋が見つからずにヒュッテの傍で一晩過ごした先輩たちの経験がある。



千本杉ヒュッテは白い小山のようになっていた。2階の窓の半分の高さあたりの積雪表面だから4.5mはある。これは記録的豪雪だ。過去40数年で一度もこのような積雪を見たことがない。屋根には2m近くの雪帽子が乗っかっているが、小屋は良く耐えている。

デッキにも積雪がたっぷり1.5m程度あり、入り口の掘り出しに30分ほど掛かった。緒方が立派な階段を掘ってくれて出入りも楽になった。今年は5月連休にもまだまだ残雪がたっぷり残っているのではなかろうか。



記録的積雪に包まれた千本杉ヒュッテ



ストーブに火が入る

ストーブは快調に燃えてくれた。小屋全体がカマクラの中にあるようで断熱効果靚面。板壁が暖まるとほかほかの小屋になった。気温も - 2 程度で寒くはない。昨年秋の建設50周年記念登山の残り物の缶ビールがよく冷えて床に転がっていた。早速頂く。うまい！夕方から細かい雪が降りトレースが消される程度(2~3cm)に降り積もった。

夕食は鍋。金井良幹事が下ごしらえしてくれた野菜は鍋に入れるだけ。肉もたっぷり、大鍋に山盛りになってストーブでぐつぐつ煮えていく。味噌やウドンスープなどの味付けを坂本が上手にやってくれた。バカの三杯汁と言う諺があるが、4杯汁で腹いっぱい。



暖かい団欒



楽しい会話

20:00 就寝

食事も早く終わって早々とシュラフに入った。持参した夏用シュラフと小屋のシュラフの重ね着、ダブル・シュラフは暖かく快適だった。

2012年3月04日 日曜日

5:00 起床

残念ながら晴れなかった。ガスに包まれている。



2階もほぼ埋まってしまった千本杉ヒュッテ

7:50 出発

緒方リーダーの決定は、頂上に登り、その足で東尾根下山だ。誰も異議なし。あの長いブンマワシをガスの中で苦闘するのは願い下げだ。

8:24—8:55 氷ノ山頂上避難小屋

濃い霧の中、山頂付近はトレ - スも残らない氷化した緩やかな斜面を登って頂上に。山頂の避難小屋がぼうっと霧の中に姿を現した。小屋に泊まっていたらしいパーティが写真を撮ろうとしていたのでシャッターを押してあげる。神戸大学の卒業生が一人いた。経済学部昭和49年卒業だと言う。次回氷ノ山再訪時の千本杉ヒュッテ宿泊をお勧めした。

登りは高い方に歩いていけばよいのだが、下りはしっかり方向を見定めて下らなければならない。昨年は霧の中、慎重さを欠いて甑岩の通過に失敗して反時計廻りに180度回転し、三の丸への稜線に出てしまった。



積雪状況



霧氷が美しい

頂上避難小屋でシールを外したり、少し食したりした後、下山にかかる。霧の中、一団となって下る。古千本杉で若い女性多数のパーティに出会う。可愛い顔を見ようとそばで



スキーを止めると「カッコイイ」と褒めてくれた。女子高生の一団のようだった。続いてもう一団が頂上に向かった。今日は日曜だ。国際スキー場から登ってきたようだ。



霧の中頂上を目指す(千本杉)



氷ノ山頂上避難小屋

9:08 千本杉ヒュッテ

千本杉の中は粉雪がふんわりと硬い雪面を覆っていて快適に通過する。右に折れてヒュッテに一旦出る。そこからモンスタープナに向かってトラバース。一の谷の下降点までは僅かの時間だった。最後尾の緒方も今年は長くは待たせない。新調のスキーセットの威力だ。



井上

一の谷斜面下の尾根にてサラミを配る



矢崎

9:19—9:32 一の谷下

ここで休憩。サラミを皆に振舞う。緒方は20万円の威力で一の谷を難なく下ってきた。昨年は下りが遅くて井上の振舞った生ハムを食べることができなかったが、今年はサラミにありついた。さらにたっぷり雪のついた東尾根の狭い稜線も順調に下り、東尾根避難小屋では生ハムが緒方の舌を楽しませた。

10:00—10:25 東尾根避難小屋

東尾根避難小屋から二つコブを超えると左手の林道への下降点。昨日の金井良のシュプールが残っている。標高差150mの2/3は快適にターンを繰り返したが、突然雪が腐ってズブッと深くスキーを取られて転倒した。それを見て笑った橋本も杉の根元に転倒。斜滑降しかできない軟雪を林道に下った。

10:53 林道

林道はスキーが滑ってくれたので楽にスキー場へ下った。



11:24 国際スキー場駐車場

下ってくるのは午後だろうから午前中は一滑りして、食後に迎えに行けばよいと考えていた金井良は早々と下ってきたヒュッテ組に予定を狂わせてしまった。これも緒方の新調したスキー効果だった。スキー場ではさすがに壺足の上村、松尾が最後に駐車場に下ってきた。



見込みを大幅に超えた減益の食欲

くつろぐ先輩

「ねむの木山荘」にて昼食を頂いて現役と一足先に岐路に着いた。八鹿の天女の湯で汗を流して今年の氷ノ山も無事に終了。

(以上: 井上達男 記)

例会 150 回・ねむの木山荘ステイ組報告

今年は雪が多かったが生憎の雨で、本隊（ヒュッテ～ブン回し～鉢高原・合歡の木）はブンマワシを止め東尾根から帰ってきました。本報告はルートル組みの合歡の木・長期滞在スキー組みのモノです。鹿児島の有馬さん、故横山先生の奥様とお嬢さんも参加してくれました。スキーやスノーシューの腕比べもありましたが、ストーブをかこんで、有馬さん差し入れの「かんぱち」の刺身と焼酎「天使の誘惑」をいただきながら、昨年12月になくなった本澤武次さんを偲びました。さらに翌日は30～50年にわたる岳友との交流をエンドレスに話し合いました、とうとう酒が付き、誠さん秘蔵の久米仙（沖縄の泡盛）で〆となりました。

日時；2012年3月2日～5日

参加者；金井健二、高田誠、横山公子・佳世、田中信行、壺阪祐三、小谷辰雄、橋本昭、有馬誠、金井良碩、井上達男、緒方俊治、高田和三。

- * 本澤さんとの付き合いは参加者全員深いものがありました。南米20数日に及ぶ豪華旅行、チロルでのスキー、蔵王・北海道のスキー、信さん宅・横山先生宅でのワインパーティー、合歡の木での彼のスペイン文化の発表会、HNA（ネパール援助）活動 等等など、思い出話が続きました。彼の温かく・温厚な「人柄」と国際性豊かな「見識」・「バイリンガルの語学」は衆目の一致するところでした。
- * このところ、ACKUメンバーの逝去が続いております、岳友の坂西さんは辛い目下りハピリ中ですがユックリ回復中です。詰まるところ、病気の話、大病を乗り越えた話、



「死に様の話」を愉快地語り合いました。ご本人の口からの「語り」は迫力満点でした。80を越えられた金井健二さん、喜寿の誠さんの元気な様子には感心致しました。

- * スキーとスノーシューについてふれておきます。誠さんが、喜寿祝い（お孫さんのプレゼント）として短い（99cm, シールセット）スキーを新調されました、しかし今回は小屋番仕事で忙しくお披露目だけでした。小谷さんと壺阪さんは、軽いスノーシューで小雨の中高丸（？）まで行かれました。ビックリしたのは緒方さんが20万円かけ、カービング（7点セット）を新調した事です。本隊に参加し氷ノ山の頂上の重い湿雪のなか、快調だったと悦んでおりました。佳世さんのスキーは抜群でした、金井長老にぴったりつき、我々（信さん、有馬さん、小生）は追いかけるのが精一杯でした。
- * 最後に、長老2人を交え、「これからのACKU」の事など論じあいました。大変前向きな話だったようですが、半分以上は酔っておりましたので割愛いたします。しかし大阪への帰の車中で有馬さんが「ACKUの流れ、HNAの現状をタップリ聞いた」と言ってくれました。大変有意義なスキー合宿であったと思っております。

故本澤武次さんに合掌、3月7日；高田和三記。



ねむの木三層にて 故本澤武次氏を偲ぶひと時を過ごして 3月2日
高田和三 高田誠 横山佳世 小谷辰雄 金井健二
横山君子 有馬誠



ねむの木山荘にて 3月5日
高田誠 金井良碩 緒方俊治 壺阪祐三
金井健二 有馬誠 高田和三

(以上 写真提供 高田和三)